

令和7年度 静岡県立富士宮北高等学校 入学式式辞

式辞

中央道の両側に、美しく咲く桜並木がみなさんの入学を祝福するように咲き誇っています。今日は、天候にも恵まれ、澄み渡る青空のもと、春の香りが満ち溢れています。

本日ここに、静岡県立富士宮北高等学校・令和七年度入学式を挙行するに当たり、PTA会長様、本校同窓会長様、富士特別支援学校長様、PTA役員様の御臨席を賜り、保護者の皆様共々、このように新入生の皆さんを祝福できますことは、私ども職員、在校生にとりましても、この上ない喜びであり、御参列いただきました皆様方に対し、心から御礼申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました普通科123名、商業科82名の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。皆さんが入学した本校では、昭和十二年、郷土が生んだ稀代の実業家、望月軍四郎が、地域社会に貢献できる人材を育成したい、との強いお気持ちから、私財を投じて設立した「静岡県大宮商業学校・大宮工業学校」に始まりました。その後、昭和二十八年に静岡県に移管され、県立高等学校となり、現在に至ります。今年で創立八十八年目を迎える、歴史と伝統のある学校であり、開校以来多くの生徒たちが、勉学に、学校行事に、部活動に情熱を注ぎ巣立っていきました。また、公立の高等学校としては類を見ない自然豊かな広大な敷地に、多くの校舎や運動施設を有しており、充実した学びに取り組める、恵まれた環境となっています。また、皆さんの学ぶ教室棟は、本年度から新たな校舎となります。このような伝統と環境を持った本校の新たな一員となった自覚を深めてもらいたいと思います。

本校の校訓は、「覇気・信念・明朗」です。これは、創始者、望月軍四郎が、「日常生活をするために、大切なことは、明朗な性格であり、職業人としては、一つの堅い信念を持って、実行し、人生意気に感じたならば、仕事を完成させる覇気が大切で、これこそ人間形成の根幹である」と伝えたという教えに基づいています。これは、実業家として、言い換えれば、社会の最前線で働くものとしての基本を説いている言葉です。

この校訓を踏まえ、新入生の皆さんが本校での生活をスタートするにあたって、校長として、改めてなぜ本校に入学したのかと問いたいと思います。

それに対して、中学校を卒業したら高校に行くのが当たり前だからと答えるとしたら、もう一度自身に「わたしは何がしたいのか」と問いかけてください。

九年間の義務教育を終えられたみなさんは、高校に入って、新たな友人との出会いや、部活動など、青春ど真ん中だと大きく胸を膨らませていると思いますし、世界がうんと広がる、そんな予感もあることでしょう。

先日、学校にお花のプレゼントがありました。人類は、昔から花を愛でてきました。お祝い、お見舞い、弔い（とむらい）、様々な行事でお花を添えます。諸説はあるようですが、人の起源であるネアンデルタール人のお墓にも咲くはずのない大量の花粉が見つかっていると言います。これは、人は、花の美しさから、様々な思いを感じ、それによって気持ちを整えることができたということでしょう。

つまり、わたしたちは、花の美しさに、意味を持たせることができるという力が備わっているのです。

また、鷲田清一（わしだきよかず）という哲学者が、ある入学式で芸術家の言葉を紹介しています。それは「経験から学ぶことは大切です。でも、それでは小さすぎるんです。」というつぶやきです。

芸術の世界というのは、常に、何かを創造する、つくりだすことです。言葉にならないもの、目には見えないものを表現し続ける。そのことから、自分がこれまで見てきたもの、感じたものに閉じこもるな。あらたな学びのためには、すでに持っているものだけに満足してはいけないという思いから紹介されたものです。

高校生活の3年間は、子どもから大人へと、精神的に最も成長する時期と言われます。学校は、授業、部活動など、様々なものを用意してみなさんを歓迎します。しかし、「わたしは何がしたいのか」としっかり問いかけ、自分を持つ心を大切にしていないと、何となく時間が過ぎて行ってしまうことになります。自らの高校生活に意味を持たせることができるのは、自分自身であるということです。そして、その力はすべての人が持っています。

みなさんには、今の自分でよいと小さくならず、自分の世界を広げ、自由に、一見無関係に見えるものにも挑戦し、未来をつくってほしい。そして、本校は、必ず、未来を見つけられる場所になるはずです。

この問いかけは、自分への問いであり、答えがないがゆえに、時に迷い、時に独りぼっちだと孤独を感じてしまうこともあるでしょう。後ろからそっと支えてくれているご家族、地域の方々、頼もしい先生方がサポートしてくれますが、私が大切にしてきたことをお伝えしておきます。

一つは、楽しむことです。ファンです。楽しめるかどうかです。もう一つは、感謝です。サンクス。挨拶も御礼も感謝ですね。これからの未来のためには、何か苦しく、耐えているときも、ファンとサンクスです。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言御挨拶を申し上げます。本日は、お子様の御入学本当におめでとうございます。ただいま申し上げましたように、お子様が、この高校3年間に確かな手応えをつかみ、社会に向かって新たな旅立ちができますよう、職員一同、全力を尽くしてまいります。皆様もおそらく経験されたように、高校生活は決して楽しいことばかりではありません。また、心身ともに揺れ動く時期でもあります。そのようなとき、保護者の皆様の愛情こそが第一の支えですが、同時にそのもとから旅立つ準備をする時期でもあります。学校と御家庭とが互いに信頼し、連携し合っ
てこそ、お子様の確かな成長が約束され则认为ます。皆様からの信頼をいただけますよう、精一杯努めますので、どうぞ、御支援と御協力をお願いいたします。

本日入学された205名の皆さんが、3年間に確かな成長を遂げることを心から期待して、式辞いたします。

令和七(なな)年四月(しがつ)七日(なのか)

静岡県立富士宮北高等学校 校長 小谷 和之